

2023年9月28日

住友生命保険相互会社

IFM インベスターズが運用する ネットゼロインフラファンドへの投資について

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、再生可能エネルギー等のインフラ事業を投資対象とする IFM ネットゼロインフラファンド（以下「本ファンド」）へ約 73 億円の投資を決定しました。

本ファンドは、北米・欧州・アジア地域を含む OECD 諸国において、太陽光や風力等の再生可能エネルギー、蓄電・EV 充電設備、バイオ燃料、二酸化炭素の回収・貯蔵設備の開発等、気候変動への対応を目的とするインフラ事業を投資対象としています。運用会社の IFM インベスターズは 2050 年 GHG（温室効果ガス）排出量ネットゼロをコミットしており、気候変動という喫緊の社会課題に対し、脱炭素社会の実現を後押しするインフラ投資を通じてソリューションを提供しています。



©IFM インベスターズ

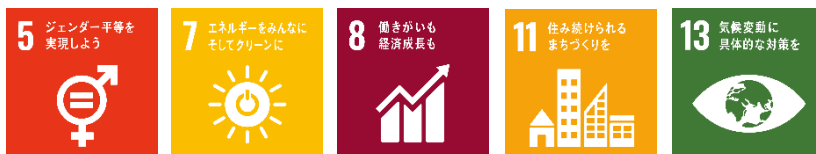
本ファンドへの投資を通じて、安定した収益の獲得が期待されることに加え、グローバルな脱炭素社会への移行に貢献ができるため、投資を決定しました。

【本ファンドの概要】

ファンド名称	IFM ネットゼロインフラファンド
運用会社	IFM インベスターズ
投資額	50 百万ドル（約 73 億円）

住友生命は、資産運用を通じて、環境・社会へのポジティブなインパクトの創出に取り組んでおり、中長期の安定的な運用収益確保に加え、脱炭素および持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【本ファンドを通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



以上